

2018年12月9日

福音書からのメッセージ

そこで、ヨハネはヨルダン川沿いの地方一帯に行って、罪の赦しを得させるために悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。

(ルカによる福音書3章3節)

洗礼者ヨハネはイエス様がこの世に来られる少し前に生まれ、そしてイエス様が活動を開始する直前に聖書に登場します。彼にはイエス様の前に道を備えるという重要な役割がありました。それは人間的な思いではなく、神さまのご計画に沿ったものでした。

聖書にはこのように書かれています。

「神の言葉が荒野でザカリアの子ヨハネに降った」と。この降ったという言葉の本来の意味は、ヨハネに与えられた神さまの言葉が、ヨハネを通してこの世の現実に関わる出来事となるということです。

神さまの言葉は、それまでにも何度も与えられてきました。イザヤやエリシャ、エレミヤといった旧約の預言者にも、そして洗礼者ヨハネにも、神さまの言葉はずっと与えられてきました。彼は罪の赦しを得させるために、悔い改めの洗礼を宣べ伝えたとあります。この「悔い改め」という言葉について、少しだけ詳しく見ていきたいと思えます。

わたしたちは日常生活の中で、取り返しのつかないことや、反省しないとイケないことをしてしまうことがあります。でも聖書の悔い改めとは、日ごろの自分の過ちを悔いるということとは少し違います。そうではなく、神さまに背を向け自分の思いだけで生きてきた今までと決別し、それこそグルンと方向を変え神さまの指し示す方に向き直る。神さまに立ち返り、神さまの意思に従う者として生きていくことです。

簡単に言いますが、これがなかなかでき



ないのです。聖書には、神さまがイスラエルの民に向かって、「あなたたちはかたくなな民だ」という場面が何度もあります。神さまは何度も預言者を送り、人々を悔い改めに導こうと、つまり神さまの方を向かせようと試みられました。しかし結果、どうだったのか。人々は神さまのみ心を見失い、自分の信じていることから、自分の思いから離れられなかったのです。それはわたしたちにも通じることではないでしょうか。

洗礼者ヨハネは言います。「悔い改めよ」と。しかしわたしたちは、どこを向いているのか分からない。分かったとしても、どうやったら向けるのか、果たして自分の力だけで向けるのか、まったくわかりません。

だからわたしたちには導き手が必要なのではないのでしょうか。わたしたちの心に寄り添い、手を差し伸べ、そして共に歩んでくださる方が必要なのです。

わたしたちは今、アドベントを迎え、イエス様の降誕を待ち望んでいます。なぜ神さまはわたしたちの間に、イエス様を遣わされたのでしょうか。

それはイエス様によってわたしたちを、神さまへと導いてくださるためなのです。そしてこれこそが、神さまの思いなのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>